

武豊町議会議長 青木 信哉 殿

武豊町議会議員 石川 よしはる

一 般 質 問 の 通 告 に つ い て

令和5年第2回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質 問 事 項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
1. 地域公共交通について	【趣旨説明】 本町のコミュニティバスは、将来の少子高齢化や人口減少社会に対応した生活交通を確保する必要性から、平成22年7月に運行が開始されました。その後は、利用促進と交通空白地の解消のため、平成23年9月には乗合タクシー制度を導入し、平成27年10月には半田市内の大型商業施設、平成30年10月には青山駅への乗入れを開始しました。 また、令和元年10月には乗合タクシー制度に替わる接続タクシー制度の導入や65歳以上の運転免許証自主返納者と70歳以上の高齢者を対象とした無料乗車券の交付。令和2年4月には介護者だけでなく、障がい者手帳保持者本人についても運賃の無料対象者とししました。そのことで、財政支援額は令和2年度時点で3.4倍に増加しました。そして、さらなる利便性の向上に向け、令和4年4月には新たな計画として「武豊町地域公共交通計画」を策定し、同年10月からは、南部青ルートを逆回りに設定し北部地域まで延伸させたこと、従来のタクシー停留所からバス停留所までの移動であった接続タクシー制度を、自宅からバス停留所まで移動できるようにし、料金を一部補助する制度に改編しました。その改編から半年以上経過し、利用状況にも変化が現れてきていると思います。利用者数が増えてくると多様な住民ニーズも出てくると思いますし、現実には私のところにも、様々な要望が届いています。 2025年には団塊の世代のみなさんが後期高齢者になるといわれ、絶対的に移動困難者が増えると考えられています。 私は平成28年9月議会において、地域公共交通について、目的、予算措置、地域公共交通会議、地域の団体を巻き込むこと、利用者の声の反映、現在及び将来的な改善プロセス、他市町との連携など7点質問させていただきました。運行13年目を迎える今、コミュニティバスの事業目的を改めて明確にし、生活の足としてより多くの方々に利用していただだけ、誰一人取り残されないまちづくりの一助となるよう、現状の問題点をしっかり把握し、今後の方向性を短期的、中長期的に明確にすることが重要だと考え、以下、質問します。 【質問事項】 ①コミュニティバスについて多様な住民ニーズが増えてきていると思うが、どのような要望が届いているか。 ②令和4年10月の改編により、コミュニティバス及び接続タクシーの利用状況に変化はあるか。 ③現状のコミュニティバスの利用者内訳に対する、財政投入額をどのように考えるか。 ④現計画でのコミュニティバス事業は、どの世代を主な対象としているのか。また、利用状況を把握する中で、今後、その対象を変更する考えはあるか。 ⑤近隣市町との連携について、現状と今後の方向性は。 ⑥コミュニティバスが、町民にとってより身近な存在となるためには、短期的又は中長期的にどのような改善策が必要になると考えるか。